

# ふるさと未来17条憲法

2009年9月

<ふるさと未来研究所>

近澤可也

一に曰く

田園に帰り 未来を生きよう。

<田園回帰プロジェクト>

ききょらい      どうせん  
 帰去来の辞：陶 潜 作

帰へりなん いざ！

田園 將に蕪れなんとす 胡ぞ歸らざる

既に自ら心を以て形の役と爲す

奚ぞ惆悵して獨り悲しむ

已往の諫めざるを悟り

來者の追ふ可きを知る

さあ 帰ろうよ！ / わが田園は荒れようとしているのに どうして帰らずにいられようか /

生活のためとはいいいながら 無益なことを自分に強いて心を犠牲にしてきた / 今さら独り

で泣き言をいってもはじまらない / 過去は改められないことを悟り / これからは自分の

ために 未来を生きよう

ふるさと回帰。

心の平安。

港に帰る。

<フューチャー・デザイン学会>

- 1．自分自身の悔いのない生き方に目覚める。。
- 2．現在を正しく認識する。
- 3．感ずる 行動に移す。
- 4．未来を生きる。

二に曰く

**ふるさと未来 同じ志の草莽の士と 心を開いて交流しよう。**

**来る者は拒まず、去る者は追わず。**

#### <ふるさと未来全国ネットワーク>

- \* 東京都中野本部
- \* 宮崎県宮崎拠点
- \* 福島県いわき拠点
- \* 熊本県熊本拠点
- \* 静岡県伊東拠点
- \* 静岡県富士拠点
- \* 新潟県長岡拠点
- \* 石川県金沢拠点

#### <ふるさと未来フォーラム>

情報交換 運動交流の場。

WEB インターネットで開かれた場。

- \* M I X I
- \* S K Y P E
- \* ホームページ
- \* ブログ
- \* メルマガ

三に曰く

**食と農は、金（かね）でなく命である。**

#### **発想の転換：農業から農芸へ！**

「農業」と定義せずに、あえて「農芸」と宣言します。「都市農業」「都市農芸」

農業を単なる 1 次産業として、経済的にデータ化・数値化しない。食生活、健康、福祉、文化、教育、住環境、環境保全等の果たす役割を、コストに置換し評価する。

農業を職業から芸の域に高め、喜びの道をきわめる。

#### <都市農芸環境文化論>

「都市農芸」環境文化論とは何か？ 「都市農芸」環境文化論の<天・地・人> = 地の利・人の和・天の機(とき)を識る。

人間・個人・家庭・生活・環境・世界・地球と係わり合いを持つ「都市農芸」環境文化。

現代、その直面している問題点 < 自然破壊・環境汚染・地球温暖化・一局集中・所得格差・貧富二極分離・都市問題・農村疲弊・国土荒廃・少子化・老令化社会・グローバリズム・金融至上主義 >。  
その解決策はあるのか、新しい提案とは？

発想の転換：農業から農芸へ！

大前提：愛・共生・環境保全

持続可能な社会を実現できるシステムづくり

「都市農芸」が、日本の固有の風土・気候・民族・歴史・自然・環境といかに係わり合いをもち、また、どのように私たちの居住・住宅・空間・建築・村・街・都市を形成してきたのか。その固有性と普遍性を学ぶ。そして現代の直面する諸問題点の解決の糸口を考え、具体的な方策を提案する。

四に曰く

**農的暮らしの永久デザイン < パーマカルチャー >**

人間にとっての恒久的持続可能な環境を作り出すためのデザイン体系である。

現行の農業に飽き足らず、より自然な、環境にやさしい農業をめざす。

具体的な土地についてのデザインである。

生物学的システム・人間生活全体を含むシステムづくりである。

註：< パーマカルチャー >：Bill Mollison Holmgreen Eny Mia Slay

パーマネント(permanent 永久の)とアグリカルチャー(agriculture 農業)の合成語

パーマネントとカルチャー(文化)の縮約形

文化というものは、永続可能な農業と倫理的な土地利用という基盤なしには長く続かない。

パーマカルチャーには、植物、動物、建物および水・エネルギー・コミュニケーションなどの生産基盤を扱う側面がある。

その要素を具体的な土地・敷地・場所の中にどのように配置するのか？

各要素間にどのような関係を作りだせるか？

雑草、花木、作物、灌木、植物、菌、みみず、昆虫、鳥、獣、動物、人間

生態学的に健全で、経済的にも成り立つ永続的農業の枠組み・システムを作りだすことである。

多種作物農法：樹木、灌木、草木、野菜、草、菌類、根系

「家庭的自給」を基礎とし、「地域社会の自立」を確立し、さらに「企業努力」を進める。

土地・情報・資金など、今こそ適切な法的・経済的方針を作ることが必須である。

**< 都市農芸・環境共生都市計画 >**

\* パトリアターウン田園都市計画

\* ビオーブ

\* クラインガルテン：<花と緑の手づくり村構想> 群馬県倉淵村

農的ライフスタイル

定年帰農

朝市・産直・農業の6次産業化

地域資源

地域農業システム

生活文化・農村文化

クラインガルテン グリーンツーリズム

五に曰く

**叡智と技術で 日本の自然と国土をまもり 次の世代に伝えよう。**

**<食と農と環境：国土保全長期構想>**

- 食料危機のときの対策を、今のうちから総合的・複眼的・戦略的な発想で、真剣にたてておくべきである。
- 農地の荒廃をとめる手だてを考える。一時的に公園、グラウンド、野原、クラインガルテン、ビオトープ用地等として利用し、食料危機がきたときは、すぐに農地に戻せるように『食と農の日本国土基本計画』をつくる。
- 似非(えせ)グローバリズムの波に呑み込まれることなく、日本固有の風土、文化、歴史、伝統を受けつぎ、叡智と技術で日本の自然と国土をまもり次の世代に伝える。

**食糧自給率の向上！**

美しい国土の保全

水資源の確保

**今後の課題、問題点・研究課題・<農業と環境の調和>**

経済発展と生態系の保護 森林保全 人間と野生動物の共存

固有種・絶滅品種の保護 人類の共通財産の保全 エコツーリズム

経済活動と地球温暖化 国際協調の機構の創設 環境サミット

水資源有効利用 新しい法制の整備 「<食と農と環境> 国土保全長期構想」

地域コミュニティの発展 農政の補助金、奨励金の見直し 「都市農芸振興助成金」の創設

クリーンエネルギー研究・開発新技術・問題解決のメカニズム・システムの開発

都市と農村、経済と環境、人間と他の生命体などの利害の相反する、対立事象の共存、共生  
そこにはバランス感覚・調和の美学・共生の思想を磨くことが必須である。

環境保護または社会事業の分野での研究、啓蒙、実践、活動、組織、人づくりが始まっている。

国際関係、政治・法律・経済、行政、社会保障、福祉、教育、情報、都市・コミュニティ、住民参加  
など、多角的・複眼的な研究と実践をおこなう、非営利かつ独立の研究機関(シンクタンク)などの  
活動も期待されている。

六に曰く

**自然との共存・環境と共生：〈環境共生住宅〉に住もう。**

\* 〈ガイヤの家の憲章〉：地球との調和のある設計

精神に対する平安が保てる設計

身体が健康になる設計

\* 〈ナチュラルハウス〉

\* クリーンエネルギー〈ソーラーハウス〉：太陽建築

七に曰く

**遊び心を持って！ 仕事にも、人生にも！**

**〈ふるさと未来こども遊磁体〉**

八に曰く

**〈ふるさと未来デザイン学会〉**

**デザイナーは未来の錬金術師。**

- 1．生活の質を高め
- 2．仕事を創出し
- 3．人々を幸せにする。

デザインとは「ニーズを満たし、生活に意味を与えるために、先例のない新しいやり方で  
自分たちの取り巻く環境を形作る人間の本性」と定義する。

オハイオ = オ:面白いもの。

ハ：初めてのもの。

イ：意味のあるもの。

オ：驚きをあたえるもの を創りたい。

オ：面白いもの。

面白いものを創りたい。心から喜べるものを。理屈抜きでオモシロイものを。面白いものは、それだけで存在価値がある。

ハ：初めてのもの。

初めてのものをつくる。この世に、はじめてかたちを表す者の出現に手を貸したい。初めてのものをつくるのが、ほんとの創造だといえる。

イ：意味のあるもの。

意味のあることをしたい。自分にとって、意味のある提案・行為・作業・作品をつくりたい。意味を持つということは、新しい概念を持つことである。概念化 本質を表現できる言語を創り出すことである。

オ：驚きをあたえるもの。

驚きのあるものを創りたい。驚きをあたえたい。驚き、心がゆさぶられる。心がゆさぶられると、その時、何かが見えてくる。自分もオドロキ、他も、大いに驚かせたい。

九に曰く

#### <ふるさと未来物語>

迫りくる危機を乗り越え、試練耐え、新しい時代の新しい生活を作り上げる主人公のお話を創る。

#### \*英雄の旅の物語

1．発端：旅立ち

2．展開：新たな世界に入る「イニシエーション」

人生の節目に行われる儀礼：通過儀礼

3．解決：ふるさとへの帰還

#### 「語りによるイメージ作り」

物語は将来を凍通し、予測し、計画を立て、説明するための最良の方法である。

十に曰く

#### <ふるさと未来健康クラブ>

「自然への回帰」による「癒し」

- \* 自然治癒力
- \* 野口整体術
- \* アンチエイジング

十一に曰く

**志をもつ若い有能な人材を助ける<トータルな支援の仕組み>を作ろう。**

真の支援の心もち、もてる豊富な知識・技術・経験・人脈を提供して、若い有能な人材を支援し育てる仕組みを作る。

**若者の「夢」「感性」「志」は実現する。**

メンター：人生経験の豊かな人・よき支援者・指導者・理解者・後見人・助言者・教育者を果たす役割の人

メンティ：現時点ではまだ未熟で支援を受ける人。

メンタリング：具体的な支援行動や配慮の全体。

成果につながる、具体的で目に見える行動をさして「メンタリング行動」という。

**<あしながおじさん未来企業支援基金>**

『志ある若者』を支援するための基金募集を行う。

十二に曰く

**<ふるさと未来起業>**

ふるさとで、田園で、自分の生活している場で、自分の好き仕事をしながら社会に貢献できる企業を創設する。

<ふるさと未来企業>は新規事業を行う人(ベンチャー)を支援する、日本での民間のある種のインキュベーターの役割を果たす。

\* インキュベーターとは孵化器の意味。

\* インキュベーション：(抱卵・培養・保育の意)設立して間がない新企業に国や地方自治体などが経営技術・金銭・人材などを提供し、育成すること。

十三に曰く

**<ふるさと未来劇場>**



十四に曰く

<ふるさと未来女性力>

十五に曰く

<ふるさと未来セミナー>

十六に曰く

<ふるさと未来デザイン般若心経>

見えないけれど確かにあるもの<空>に 現実の姿・形<色>をあたえ この世に生み出すことが 創造行為だといえます。

**色不異空 空不異色**

色は空に異ならず 空は色に異ならない

しきふいくう くうふいしき

**色即是空 空即是色**

色はすなわち空であり 空はすなわち色である

しきそくぜくう くうそくぜしき

**受想行識 亦復如是**

受・想・行・識もまた かくのごときものである

じゅそうぎょうしき やくぶによぜ

色(しき)は 実体 形あるもの 目に見えるものであり

空(くう)は 形がなく 目では見えないものであるが

実体が生まれる背後に 確かに存在する 何ものかなのです。

[空(くう)]:見えない夢 希望 理念をすこしでも [色(しき)]:現実のものにしたい。

理念は高く掲げたい!

目に見えないけれど 大きな力を持つものに[受(じゅ)]:「情報」があります。

現代は情報化の時代です。

<Web インターネット ホームページ ブログ メール.....> は大きな存在です。

見えないけれど あるんだよ! (金子みすず)

十七に曰く

**<大前提：愛・共生・環境保全>**

自分の住む土地・近隣・村・街・都市・国を愛していること。

自分を、家族を、友人を、隣人を、同胞を、他国の人びと、人間を愛せるか？

人間中心でなく、草、花、樹木、植物、虫、昆虫、魚、鳥、動物たちと共生できるか？

土・石・山・水・川・海・空気・空・環境・地球を傷つけない。

『宇宙船地球号』：未来の『閉じた経済』は、同様に『宇宙飛行士経済』と呼ばれるべきだろう。ここでは地球は一個の宇宙船となり、無限の蓄えはどこにもなく、採掘するための場所も汚染するための場所もない。それゆえ、この経済の中では、人間は循環する生態系やシステムの中にいることを理解するのだ。 K・ボールデング

『生きてる地球：ガイア』：地球と生物が相互に関係し合い環境を作り上げていることを、ある種の「巨大な生命体」と見なす仮説である。ラブロックは始めこの理論を「自己統制システム」と命名したが、後に作家のウィリアム・ゴールディングの提案によりギリシア神話の女神「ガイア」にちなんだ名前へ変更した。 海洋生物学者 ラブロック

**「持続可能な社会」とは**

現代、地球温暖化・オゾン層破壊・熱帯林の減少などの地球環境問題、ダイオキシン等の環境ホルモン、廃棄物・大気汚染等の都市生活型公害、自然や生態系の破壊など、人類の生存すら脅かすほど深刻な問題に直面している。将来世代や他地域などに対し多くの「ツケ」をまわすことがないよう、その問題点と改善点の解決が論議されている。

**<ふるさと未来研究所>** は長期的な展望と地球規模での視野を持ち、「**持続可能な社会 (sustainable society)**」を実現できるシステムづくりを研究し、これを実現する。